



南会津 のうりんニュース

平成22年7月(第146号)

今月の写真：尾瀬のニッコウキスゲ（檜枝岐村）

尾瀬や大内宿は大勢の観光客で賑わっていますが、先達の方々が紆余曲折を経て、様々な障害を乗り越えてきた結果です。地域産業の創出に向けて、身の回りにある将来花咲く種を見つけませんか？

今月の内容：

- 今月のトピックス
 - ・水の郷をみんなでウォーク!!
 - ・泥まみれで田植えを体験 田んぼの学校開校!!
 - ・南会津地方植樹祭!!
 - ・アクの弱いわらびで地域おこし!!
 - ・新たな観光地を目指して！「ふれあい体験in下郷」
 - ・ファミリー緑の教室
- 特集
 - ・南会津地方におけるフォレストセラピーを通じた地域活性化
- 今月のコラム
 - ・「南会津地方稲作振興への提案」

平成22年7月20日発行 福島県南会津農林事務所

処理前後の水質の違いの説明を受けたり、ビオトープとしている田んぼの生き物調査をしました。最後は公園に帰ってきて、池に放されたイワナのつかみ取りを楽しみました。

農業用水の役割や農村での下水処理施設の重要性、田んぼの生態さらには地域の伝統を再認識する一日となりました。ウォーク閉会后、地区の方は集会所に移動し、例年の地区行事である「早苗ぶり」で盛り上がりました。（農村整備部）

今月のトピックス

水の郷をみんなでウォーク!!

只見町梁取で、農業水利施設への理解を深め、集落による維持管理について考える「水の郷ウォークin梁取」が5月30日に開催されました。

農地・水・環境保全向上対策事業に取り組んでいる梁取集落保全会や只見町土地改良区が主催し只見町、農林事務所農村整備部が支援したもので、当日は天気にも恵まれ、只見町長はじめ、地域の子ども、住民など約100名が参加して盛大に行われました。

梁取農村公園を出発、最初に国指定重要文化財の成法寺に行き、その後、用水ポンプ場や地域の主要な水源である伊南川の堰を巡り、カップ伝説の話などが織り込まれた保全会役員の話聞きながら、ウォークしました。その後、農業集落排水の処理場を見学、



梁取のビオトープで生き物調査をする子どもたち

一口メモ

● ビオトープ (Biotop) とはドイツ語のBio (生き物) とTop (場所) を意味する言葉の合成語で、生き物の住む空間をいいます。水田、採草地、ため池、雑木林などは、元来おのおの一種のビオトープとしての機能を有していると言えます。

泥まみれで田植えを体験

田んぼの学校開校!!

田んぼを学びと遊びの場として活用する「田んぼの学校」が今年もスタートしました。南会津町の南郷二小近くの約5aの水田で、田植えから稲刈りまでの農作業を小学生が体験します。

5月28日、全校児童60名、先生方、南会津町南郷総合支所、農林事務所そして子供たちのお手伝いをする地元応援団の皆さんが集まり、現地で開校式、田植えが行われました。開校式は児童の進行で進められ、関係者から、一本一本の苗に気持ちを込めて植えること、一粒の粃が秋には数百倍の米粒になること、田んぼにはいろいろな生き物がいることなどが話され、苗の植え方の説明を受けました。

開校式後はいよいよ田植え。まず最初に、昔ながらの野良着を着た5年生11人が素足で田んぼに入りました。まっすぐ均等に植え付けできる「ころがし」を利用して、こがねもちの苗を丁寧に植え付け



5年生による田植え風景

ていきました。5年生のお手本の後は低学年のみんなが順次田んぼに入って田植を体験しました。最初、「つめたい」「きもちわるい」とい

っていた子供達も次第になれ、歓声を上げ、泥んこになりながら、応援団の手伝いもあり、無事作業が終わりました。

田んぼの学校はこれから、5年生が中心に稲の生育状況を観察し、夏には草取りと生き物調査をして、秋に稲刈り・収穫祭をすることになっています。

(企画部・農業振興普及部・農村整備部)

南会津地方植樹祭!!

6月9日只見町大倉の比良林公園において、只見町、只見町緑化推進委員会、南会津地方緑化推進委員会の主催による「第59回南会津地方植樹祭」が開催され、田島第二小学校緑の少年団や地元の只見小、朝日小、明和小の児童など約180名が参加しました。

式典では、只見の自然に学ぶ会(只見町)、渡部民夫さん(只見町)、菅家文義さん(南会津町)、鈴木利秋さん(南会津町)が緑化功労者として表彰されるとともに、平成13年度から毎年南会津産木製玩具類の売上金の一部を南会津地方緑化推進委員会へ寄付している株式会社高島屋様へ感謝状が贈呈されました。



力を合わせて植樹しました!

式典の後、参加者全員でサクラやコブシなど7種類230本の広葉樹の苗木を植樹しました。今年

は射撃場跡地への植樹で、将来、花見や散策ができる公園として、来訪者が楽しめるよう、参加者が力を合わせて無事植えることができました。

この植樹祭は、県民参加による森林づくりの推進を目的に、「緑の募金」や県の補助金が充てられています。今回の参加者一人ひとりの手によって植えられた苗木は、やがては大きく育てて花を咲かせ、地域の美しい緑を創出してくれることでしょう。

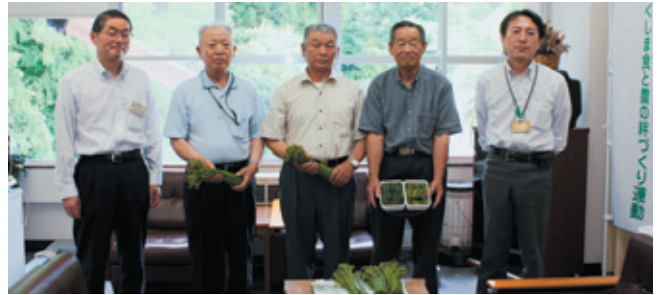
なお、来年度は南会津町において開催される予定です。(森林林業部)

アクの弱いわらびで地域おこし!!

藤生わらび生産組合では、「アクの弱いわらび」を栽培しています。去る6月16日、星光吉組合長、湯田芳夫会計、大竹雄三前会長が南会津農林事務所を訪れ、「アクの弱いわらび」を活用した地域おこしについて報告とPRを行いました。

「アクの弱いわらび」とは、県林業研究センターが南会津地域からの要望を受け、食味検査などを重ねた結果選抜したわらびのことです。通常一昼夜かかるアク抜きが、2~3時間程度で簡単にアク抜きができるのが特徴です。

藤生わらび生産組合では、平成15年度からアクの弱いワラビの栽培に取り組み、現在1.5ha程まで増殖しました。わらびは定植後、収穫できるまで時間がかかることから、栽培を始めて7年目にして販売できることとなり、試験販売(のうりんニュース平成22年6月号で報告)を経て、今後の出荷方法について検討を行っています。



湯田会計(左)、星組合長(中央)、大竹前会長(右)が渡辺南会津地方振興局長(左端)と宍戸南会津農林事務所長(右端)を表敬訪問

増殖期間中には、組合で様々な方法でアク抜きの研究を行い、「2リットルのお湯に重曹小さじ1杯の割合で2時間アク抜きをし、その後真水で1時間さらす」方法が1番短時間で処理できるとの結果を得ました。普通のわらびに比べ、「アクの弱いわらび」はアク抜き後も明るい黄緑色となり、独特のヌメリ感も少なく、アク抜きの簡便性と併せ、サラダなど新たな活用方法も期待されます。収穫量はまだ限られ、直売所で販売できる程度ですが、南会津地方の特産品としての可能性を大いに秘めた山菜です。

(企画部・農業振興普及部・森林林業部)

新たな観光地を目指して!

「ふれあい体験in下郷」



6月13日と20日の2回にわたり観音沼森林公園周辺の湿地で「ふれあい体験in下郷」が開催されました。13日は、クライנגルテン利用者3名を含む約40名が出席し、木道の敷設作業を行いました。長さ約4mほどの丸太を参加者7~8人で運ぶ作業です。クライングルテン利用者の方からは「こんなに大変な作業だとは思わなかったよ。」など予想以上の重労働に、地元の方から労

いの言葉がかけられました。昼食には、地元の養鶏農家が育てた鶏を使った「会津地鶏汁」が振る舞われました。韓国風の味付けながらも地鶏のダシがきいており、大好評で中には、何度もおかわりする参加者もいました。夕方まで作業を行った甲斐もあり、全長約80mの木道が完成しこの日の作業は終了しました。

翌週20日は約40名が参加し、水芭蕉、ニコウキスゲ等の植栽を実施しました。前日まで雨が降り、この日も雨の予報でしたが幸いにも降らず、作業を進めることができました。作業は、多くの参加者が集まったおかげで午前中に終わることができ、協議会の会長から「新たな観光地になるよう協議会のみんなで管理していきたい」と、保全に向けた意

気込みを話しておられました。

加藤谷川流域活性化協議会として2回目のイベントで、今回が、クライנגルテン利用者との初めての交流体験でした。クライングルテン利用者も木道の敷設や水芭蕉の植栽など、普段の生活では経験できない貴重な体験となったのではないのでしょうか？今後、都市住民と交流する機会がさらに増え、地域の活性化に繋がるよう期待します。

(企画部・農業振興普及部)



★ 特集！

南会津地方におけるフォレストセラピーを通じた地域活性化

利便性や経済性が優先される現代では、仕事や生活におけるストレスで体調を崩したり、高齢化や孤立による住民の健康問題が顕在化しています。また、当地方は他地域に比べて過疎化が著しく、人口減少の歯止めや雇用の創出が大きな課題となっています。

これらの課題に対し、平成17年度に発足した「南会津地方森林セラピー研究会」（以下、研究会）は、郡内のもりの案内人や観光協会、町村や県が一体となり、当地方の貴重な財産である森林環境や温泉資源を活かした地域活性化策を研究してきました。



これまで4年余り、研究会が中心となり、温泉調査やモニターツアーの実施、散策コース紹介マップ「南会津癒しのさんぽ道」の作成・配布、先進地域や研究者等有識者を招いての講演会・研修会を開催し、研究・普及活動を展開してきました。この間、「やまはく（南会津やまなみ泊覧会）」でのツアー実施など、各地域でも徐々に活動を展開しつつあります。特に、研究会構成員であり、南会津地方の森林環境を生かした公益的活動を展開するNPO法人森林野会が、森林環境を生かした交流人口の増加や住民の健康増進のため、積極的に活動しています。昨年度の活動概要をご紹介します。

1. 南会津フォレストインストラクター養成講座

県では森林の役割や重要性を広く伝える「もりの案内人」を養成していますが、特に南会津地方の森林についての知識を持ち、フォレストセラピーのガイドとして活躍する人材を育成するため、森林野会では昨年度から独自の講座を開催しています。7～10月に計7回の講義・実習を受け、11名のインストラクターが誕生しました。今年度も継続して養成講座を実施することとし、5月27日に開講しました。

2. フォレストセラピー体験会の開催

昨年8月29日に南会津町田島地域「会津山村道場・うさぎの森」で、また10月1日には下郷町「観音沼森林公園」で、一般参加者による体験会を

実施しました。体験会では、野岩鉄道とタイアップして誘客し、インストラクターの案内による森林散策のほか、南会津保健所の医師や各町保健師の皆さんの協力体制のもと、参加者に散策前後の血圧・脈拍・ストレス度測定や健康相談を体験してもらいました。

3. 南会津地方フォレストセラピー研修会

去る3月12日には、うさぎの森において、作田善雄先生（福島市、産業医・もりの案内人）による「医学的に見たフォレストセラピー」と題した講演ののち、カンジキを履いての雪上体験会を開催しました。

「フォレストセラピー」はとても奥が深く、一朝一夕に理解・確立できるような分野ではありません。しかし、森に入って「気分がよくなった」「心が落ち着いた」「癒された」と感じられた方は多いでしょう。すべての人に有効とは言えませんが、森林自体に癒し効果があることは科学的にも認められているところです。

交流人口の拡大は、只見町の貴重なブナ林に代表される森林環境の保全など、配慮すべき点を忘れてはなりません。今後住民と行政とが協力しながら、都会でストレスを感じている人や、地域住民がリフレッシュできるよう、散策に適した森林整備や受け入れる人材の育成を一步一步進めることで南会津地域の魅力を再発見し、グリーン・ツーリズムや地域産業との連携など新たな雇用や産業を生み出すことを目指していきます。少しでも興味をもったあなたも、一緒に活動してみませんか！連絡をお待ちしています！！



連絡先：企画部0241-62-5252、森林林業部0241-62-5375
またはNPO法人森林野会（森の案内処）0241-62-2102
（企画部、森林林業部）

一口メモ

「森林セラピー®」（®とは登録商標のこと、NPO法人森林セラピーソサエティ）認定されてる地域でのみ使用できる名称。
「森林セラピスト®」：NPO法人森林セラピーソサエティが実施する試験等により認定する資格。

ファミリー緑の教室!!

南 会津町湯ノ花のしらかば公園において、南会津地方緑化推進委員会主催、南会津町緑化推進委員会後援による「第24回ファミリー緑の教室」が5月29日に開催され、南会津郡から16組47名の家族が参加しました。地元の南会津町館岩総合支所振興課長の歓迎のあいさつの後、午前中の自然観察会では、参加者が4班に分かれて公園周辺の森林を散策し、植物、昆虫、野鳥など様々なものについて、もりの案内人や南会津フォレストインストラクターから説明を受け、森林の持つ様々な働きについて学びました。また、観察会の後は、家庭で作れるアロマセラピー

オイルについて学び、実際にウミズザクラの花から香り成分を抽出し、森のアロマセラピーを楽しみました。



何がみつかるかな？

午後は、小枝を利用した木工クラフト教室が行われ、もりの案内人の指導の下、動物の顔や昆虫を作成しました。親子で協力して作成し、なかには、子供以上に夢中になる大人もいたり、緑に囲まれた中での木工クラフトを十分に楽しんでいました。

なお、来年度は檜枝岐村で開催される予定です。
(森林林業部)

今月のコラム

「南会津地方稲作振興への提案」



稲 作振興というと、農村整備から外れるので、専門以外の提案と思って読んでもらいたい。6次産業化の推進ということで地域の特産物を振興するため、全県一丸となって取り組んでいるところですが、南会津地方の農林水産物の中では米の生産額が一位を占めており、農家収入に占める割合は大きく、農家の関心は高いと思うので、南会津の

米をどうしたら、ブランド米に育て、高く売れるかについて提案をしたい。

一般的においしい米をつくるための条件として3つあると言われております。1つ目が品種改良、2つ目が栽培技術、3つ目が収穫したあとの工程、すなわち選別や貯蔵です。

まず、南会津地方の米の品種というと、全国的に実力、人気の高いコシヒカリはあまり栽培されず、比較的冷涼な気候でも栽培しやすいひとめぼれ等が作られており、食味の評価は高いが人気、ブランド、知名度は劣っているように思います。一方、地球温暖化の影響で暖かい地方の米はまずくなっており、北海道米のきらら397、ななつぼ

しがコシヒカリ同等の食味ランクを確保しているように、寒い地方、高冷地の米が見直されております。南会津の米を人気ブランドにする要因はあります。魚沼産コシヒカリで有名な魚沼地方は当地方から見ると、越後山脈を越えた西側で気候、地質、水脈が似ており、相違しているのは標高が低いだけと思われ、それさえ地球温暖化の影響で当地方の条件は良くなってきております。

それから、栽培技術は専門家に委ねることにしまして、収穫したあとの工程であるが、米の食味を左右するたんばく含有率、比重、色彩、アミロース等の選別機械や品質を一定に保つ氷点下の温度で超低温貯蔵するカントリーエレベーターの近年の技術進歩については目をみはるものがあります。通常の農家ではできない選別、貯蔵の施設を導入し、品質が一定レベルで劣化していない米を一年中供給することを検討したらどうかと思います。

福島県は中通り、浜通り、会津地方と気候、地質が違いため、米の生産量が全国4位にもかかわらず米の品種及び品質が多種多様であり、それが、県として平等なPRしかできないため、全国的レベルでいくとどうしても個々の銘柄の宣伝力、知名度が落ちることになります。

南会津地方は、首都圏に隣接しているという地理的条件及び一管内一農協という強みを生かし、将来的にブランド力があり、品質が一定の銘柄米を供給できるような体制の構築を目指すのは、有効な戦略のひとつであると考えています。
農村整備部長 横川 松二郎

お問い合わせはこちら

福島県南会津農林事務所 企画部 地域農林企画課

〒967-0004 福島県南会津郡南会津町田島字根小屋甲4277-1

電話 0241-62-5252 FAX0241-62-5256

電子メール minamiaizu.nourin@pref.fukushima.jp

ホームページ <http://www.pref.fukushima.jp/norin-minamiaidu/>

南会津農林

検索

バックナンバーはこちらから

みんなが主役。「絆」がつくる



“ごちそう ふくしま”

みなさんのご意見・ご感想をお寄せください。



この広報誌はSOY(大豆油)インキを使用しています。

ここから下の段は広告です。広告の内容について詳しくは、広告主にお問い合わせください。

いちごの苗販売 予約受付中

露地栽培：秋に定植翌年6月中旬から実が食べられます。



ただ今、大切に育てています

販売開始は・・・

9月中旬より

品種

あきひめ・さちのか・紅ほっぺ



立派な苺を収穫!

贅沢に...
苺をたっぷり使用...

おいしいケーキを作りました

お問い合わせは

南会津郡南会津町井桁228

NPO法人A. R. S

☎0120-21-7080 星かおり